

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200841		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム有東坂		
所在地	静岡県静岡市清水区有東坂一丁目224-45		
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JikvovosCd=2294200841-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は1階が小規模多機能型居宅介護、2階がグループホーム1ユニットの併設施設となっております。近くに公園もある為、お客様と職員で散歩に行くことができ、機能訓練を図りながら気分転換にも繋げる事が出来ます。2階のグループホームでは自宅に住んでいた時のような温かい雰囲気の中でお客様に過ごして頂けるよう努めております。一緒に居室・フロアの掃除や洗濯物干し等を行っており、それぞれのお客様が事業所内で役割を持つ事で、ご自身の存在感を実感して頂いております。また、事業所内だけでなく、外食・外出の機会を設ける事で頂くことで、閉塞感の打破を目指しております。地域の催し物にも参加し社会との関わりも大切にしながら地域密着型を目指し取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

畑がもともとあったものの手をつけていなかったため、職員意見から今年度は小玉西瓜、じゃがいも、キャベツを栽培しています。見よう見まねで始めたことですが、地域包括支援センター職員のアドバイスのほか自治会長も作業に加わってください、利用者が生活リハビリの一環で水やりをおこない、収穫の喜びに結ばれています。またご縁の拡がりからボランティア訪問となり、フラダンス、ピエロの演舞等の楽しみが増えています。また日課の昼・夕食前の口腔体操、毎朝の体操に本年はDVDのケアビクスもプラスして取組み、ADL維持につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	チーム会議にて職員で理念を唱和することで職員への浸透を図り、会議時にチーム間で確認を行っています。	理念は職員全員が携帯しており(法人配布の「お助け本」に記載)、会議でも唱和していません。理念に基づく個人目標の制度があって、年2回自己採点のうえ上位者のチェックも入り、達成度が確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われているお祭りや催し物に足を運ばせて頂いています。地域の行事予定については、運営推進会議を通して教えて頂き、参加しています。	出初式、どんど焼き、夏祭り、次郎長イベント等の行事情報は自治会長や民生委員から入り、また近くの乳児院との交流も続き、事業所祭りにも70名余の賑わいが見られ、地域とは親しい関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあい祭りを開催し、地域の方々をお招きしております。その際、介護に関する相談等を受け付けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に定期開催しております。その際様々なアドバイスを頂き、活用できるよう取り組んでおります。	地域、行政とメンバーを揃えて隔月開催できています。これまで取組んできた家族会は法人の方針で「やってもやらなくてもよい」ということになったため、運営推進会議への出席を家族に積極的に働きかけています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、その場を通じて事業所の取り組みについて伝えさせて頂いております。	市役所には「FAXでいいですよ」と了解をもらい、運営推進会議の案内と議事録を届けており、集団指導にも出席しています。シニアサポーターにも登録し、介護相談員も受入れ、連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には会議時に周知・徹底しております。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねておりますが、鍵を掛けられることは現在はございません。	日中玄関には施錠がありませんが、ユニットは電子ロックが配されています。法人、所内ともに本件に係る研修が実施され、「スキル研修」と称するマンツーマン講習では全職員対象とし、知識の標準化が図られています。	「電子ロックが本当に必要なのか」話し合う機会を設けて意識の確認をおこなうとともに、家族への説明や了解についても年に1度程度は実施すると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者対応マニュアルの作成や虐待自己チェックの実施を3か月に1度行う事により、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して成年後見制度について学んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けさせて頂いております。その後、御理解・ご了承を頂き、書名・捺印をお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会、お客様アンケートにてご意見を頂き、検討・反映に努めております。	ほとんどの家族が月1回は顔を見せてくださるため、「有東坂通信」は手渡しています。法人でも年1回顧客満足アンケートを実施しており、結果を参考に意向に副っています。	家族会がなくなったとのことですので、クリスマス会といった行事に誘えたら、良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や毎日の業務の中で職員の意見・考えを確認しております。また、個別面談も行い意見を反映させています。	法人では趣味など本人の生きがいを応援するための長期休暇制度があります。現状は職員数が十分とはいえず申請する職員はいませんが、会議では前向きな意見がでていて活発です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に目標管理シートを作成、半年毎に面談を行い個別に評価を行っています。また、目標設定をし、職員が向上心を持ってやりがいを感じながら働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時などに参加できなかった職員に教え、情報共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際や事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前に聞き取り調査・お試し利用をして頂き、お客様にご満足して頂けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族とお話させて頂き、悩み・要望・相談について伺っております。 また、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービス内容をしっかりと説明することで、お客様・ご家族の方の使いたいサービスを把握し情報を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様が行える家事などを行って頂き、役割を持って過ごして頂いております。 また、お客様同士が交流できるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日々の様子や生活歴などを話し合っ共有しております。 また、お客様の普段の写真などを用いてご家族とお客様がお話できるよう取り組んでおります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族と連絡を取り合い、一緒に外出する機会を設けております。 また、お客様の好きな物、場所を把握し職員と外出する計画も練っております。	「お酒が飲みたい」という人にはワインを家族が定期的に届けてくださり、在宅の頃からの乳酸飲料を続ける人もいます。またステレオを持ち込み、居室で好みのクラシックに浸る人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通して、お客様同士に会話等の交流が図れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、相談事等ある際は親身になって対応させて頂いております、		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりと積極的コミュニケーションを取ることを大切に、お話を傾聴し支援に努めております。	入居時にとったアセスメントは更新時に見直し、利用者との会話や観察で得た情報は申し送りノートやナースノートで共有しています(パソコン上の書面はPC操作が苦手な人もいるため全員共有とはなっていない)。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや個々の生活歴情報からサービスに繋げていける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や、介護記録入力、申し送りノートを活用し、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出しあい、介護計画に反映出来るよう努めております。	チーム会議での職員カンファレンスの意見交換と日々の記録を以て、計画作成担当者兼介護支援専門員が介護計画書を作成しています。サービス内容は毎日○×△式で付け、実施を確かなものとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で話し合い・情報共有をしながら実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々と挨拶をし、また地域行事の参加を通じ支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、主治医と連携を取れています。また、ご家族様の移行に合わせ状況に応じた通院介助も行っています。	月2回訪問診療くださっている協力医に全員が変更しています。歯科など専門医は家族にお願いし、日頃の状況を口頭で伝え必要に応じて書面を渡しています。医療情報は一括してファイル保管しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中の様子や変化などの情報をを訪問看護師に伝え、共有できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行っています。その後の対応方法については主治医と相談し決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と終末期のあり方について事前に話し合い、主治医・事業所・家族間で連携を図り支援に取り組んでいます。	契約時には重度化に係る書面を家族と交わしていますが、医師の宣言があつてから数日で亡くなられた例はあるものの「看取りに取組んだ」と言えるような例は此処数年ありません。医師も契約の訪問看護事業所の看護師も協力的で体制は整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通して対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っています。また、災害時には地域の方々に協力して頂けるようお願いさせて頂いています。	消防署員立ち合いの訓練もおこない、また誤報では「間違いと判っていても念のため避難するように」と指導を受けています。また地域との連携は天候の不具合やシフト都合もあつて実現していません。	地域との防災協力については意識はあるものの、何か不都合があると流れてしまうため、今後の推進力強化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	法人内では挨拶のコンクールが催され、また3ヶ月に1度マナー講師による指導もあり、職員の挨拶のクオリティは大変高く、利用者とのやりとりではプライドが傷つかないような返答をしていることも視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を話せるように、職員がお話を傾聴することで、お客様の希望に沿った支援を行えるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のご希望に合わせて、散歩や小規模のレクリエーションに参加して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用して頂いております。また、着るものに関してはご本人に選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と料理をし、食事・片づけを行っています。	食事では車いすから移動して席に着くよう支援している様子を視認しました。調理レクリエーションを実施し、できる場所を利用者にも手伝ってもらい、ロコモコ丼やロールキャベツなどで楽しむ日が毎月1回あります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況に合わせ、食事量や水分量が確保できるように支援させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う事で、口腔内の清潔を保つことが図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時、または排泄状況に合わせ、トイレ誘導を行い出来る限りトイレ内で排泄して頂けるよう努めています。	排泄チェックは自立の人も含め全員に対して付けていて、変化を把握しています。日中はトイレでできていますが、夜間は睡眠優先としてベッド上でのパッド交換が必要な人が3名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取して頂けるよう働きかけ、また体操などによって適度に運動して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけ、ご本人の希望に合わせて対応させて頂いております。	週3日を目安とし、医師から指示がある人は休浴日には足浴を設けています。正規職員は全て男性ですが、現在同性介助を希望する利用者がいないため、スムーズな実施が叶っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活歴に合わせ居室空間・寝具に対応するよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて、服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに施設内での役割を持って過ごして頂いております。また、声掛けをしお客様の希望に合わせて散歩や、レクリエーションに参加して頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員によるドライブや散歩、ご家族と連携しお客様の希望に沿えるような外出の機会を持つ事が出来るよう支援しております。	好天候とともに職員配置が厚い時間帯には散歩があります。年間の外出企画としては初詣、花見、苺狩り、地域の夏祭り、清水の七夕まつりなどが位置付けられ、全員が難しい場合は2回に分かれて出ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所で預かりしている。外出時の買い物は預かりした金額の中で、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より了解が得られた際には対応させて頂いております。また、お客様からご家族様と連絡が取りたいという希望があった際は職員が取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心がけております。	廊下には小さな絵画が見られ、こあがりやソファなどの配置には居場所づくりがあることが確認できますが、5Sにはやや課題が残ります。また食事中、テレビが消されラジオがオンされていました、利用者は聞いてはいない様子でした。	次の2点の見直しを期待します。①全てのエアコンにハンガーをかけて濡れタオルを下げるのは、いささか美観を損なうのではないかと②食事中のラジオはBGMに替えたほうが雰囲気が落ち着くのではないかと
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士で会話ができるように職員の方で席順等を考えさせて頂き、対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し、落ち着いて暮らせるように心掛けています。	ベッド、クローゼット等が予め備わり、どの居室も足元に何も置かず、スッキリしています。職員が100円均一で購入した額に日々の暮らしの様子を撮影したものを貼り出して、各居室に僅かな彩をもたらしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印を付けて、お客様に分かりやすくし対応しております。		